

製品名: PKC α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16199**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	76kDa

抗原情報

遺伝子名	PRKCA
別名	PRKCA; PKCA; PRKACA; Protein kinase C alpha type; PKC-A; PKC-alpha
遺伝子 ID	5578.0
SwissProt ID	P17252
免疫原	抗血清はヒト PKC α 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 606-655

背景

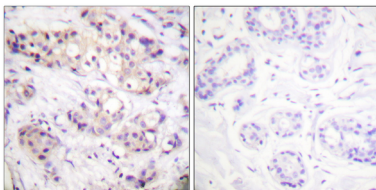
プロテインキナーゼ C (PKC) は、カルシウムおよびセカンドメッセンジャーであるジアシルグリセロールによって活性化されるセリンおよびスレオニン特異的プロテインキナーゼのファミリーです。PKC ファミリーのメンバーは、多種多様なタンパク質標的をリン

酸化します。また、多様な細胞シグナル伝達経路に関与することが知られています。PKCファミリーのメンバーは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの主要受容体としても機能します。PKCファミリーの各メンバーは特定の発現プロファイルを持ち、細胞内で異なる役割を果たしていると考えられています。この遺伝子によってコードされているタンパク質は、PKCファミリーのメンバーの1つです。このキナーゼは、細胞接着、細胞形質転換、細胞周期チェックポイント、細胞容積制御など、さまざまな細胞プロセスで役割を果たすことが報告されています。マウスのノックアウト研究では、このキナーゼが心筋細胞における心臓収縮力とCa(2+)処理の基本的な制御因子である可能性が示唆されています。[RefSeq 提供、7月2日] 触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: サブユニットあたり3個のカルシウムイオンを結合します。これらのイオンはC2ドメインに結合します。機能: PKCはジアシルグリセロールによって活性化され、様々な細胞タンパク質をリン酸化します。PKCは、腫瘍プロモーターの一種であるホルボールエステルの受容体としても機能します。機能: これはカルシウム活性化、リン脂質依存性、セリンおよびスレオニン特異的酵素です。CSPG4をリン酸化することにより、細胞運動に関与する可能性があります。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。PKCサブファミリー。類似性: AGCキナーゼC末端ドメインを1つ含む。類似性: C2ドメインを1つ含む。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含む。類似性: ホルボールエステル/DAG型ジンクフィンガーを2つ含む。サブユニット: ADAP1/CENTA1、CSPG4、およびPRKCABPと相互作用する。ホスファチジルセリン存在下でSDPRに結合する。

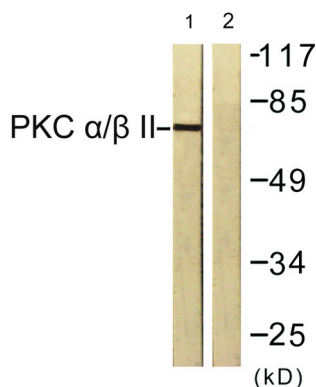
研究分野

微小管調節; アクチンダイナミクスの調節; 幹細胞経路; インスリン受容体; ErbB/HER; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; WNT; WNT-T細胞; β -カテニン; B細胞受容体; PI3K/Akt; mTOR; AMPK

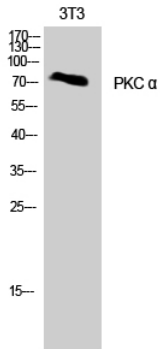
画像データ



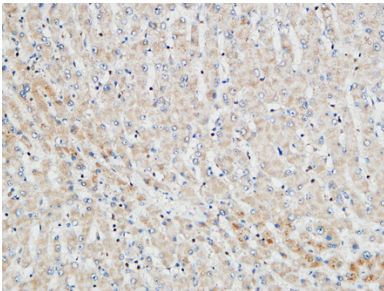
PKC α 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



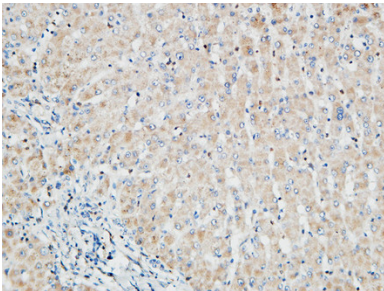
UV 15°処理したNIH/3T3細胞ライセートのPKC α 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



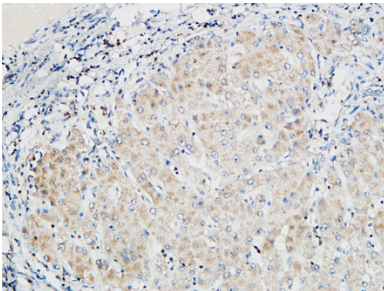
PKC α ポリクローナル抗体を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト右肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト右肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト右肝臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晚)。2、抗原賦活化には高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。